

岡山県における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 振り返りと今後の展望



【概要】

日本では、2020年2月上旬以降、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を取り上げた臨床・実験研究が増加し、多くの症例報告が発表されている。同時に、国や学会からも多くの通知やガイドラインが出されている。COVID-19の拡大を防ぐためには、国だけでなく都道府県レベルでの最適な対策が必要である。そのためには、各都道府県での感染者の発生状況を詳細に調査・分析することが非常に重要である。本報告では、岡山県で観察されたCOVID-19の疫学的特徴を述べた後、今後の公衆衛生活動の方向性を検討する。現在の公衆衛生対策を強化・維持することが極めて重要であることを改めて強調したい。特に、岡山県でインフルエンザの流行時期が重なったときには、感染の拡大を最小限に抑えるために、感染者とその周辺に関する情報を迅速かつ詳細に把握し、ウイルス感染を適切に阻止し、感染者を早期に封じ込めるなどが重要である。

【キーワード】

COVID-19、インフルエンザの流行期、疫学調査、岡山大学病院、公衆衛生上の措置

塚原宏一、東恩納司、津下 充、宮村純子、草野展周
岡山大学病院感染制御部、同 小児科、同 薬剤部、同 感染症内科

